

風薫る

2023.5.2

風薫る5月となった。以前、ある人に校長室だよりを出していると話したら、タイトルは「薫風」ですかと聞かれたことがある。「薫風」は、学級担任をしていたときに出していた学級通信のタイトルである。

校長室だよりを始めるときに、タイトルを考えた。「薫風」も候補の一つではあった。だが、しっくりこなかった。いろいろと悩んだ。いくつものタイトルが浮かんできては消えていった。校長室だよりを出し始めるきっかけとなった歌がある。美空ひばりさんの「愛燦燦」である。プロのオペラ歌手の方が歌ってくださった。それを聞いて、タイトルが定まった。「燦燦」である。

まさか、ここまで続くとは思わなかった。学級通信「薫風」は、計1300号を超えている。少しでも、校長室だより「燦燦」も、それに迫りたい。

「薫風」は、どうしても、私にとっては学級のイメージが強い。幸いにも、今年度で採用3年目となるSS先生が、「薫風」を引き継いでくれた。「薫風」といえば、風薫る5月である。新緑の季節である。4月に新年度がスタートし、エネルギーが満ち溢れる5月である。この5月で、1年の方向性が決まる。これは、学級経営も学年経営も部活動も、そして学校経営も同じである。5月が、その成否を左右する。

そんな5月に、爽やかな風を吹き込みたい。そして、学級という空間に、1年を通して快い風を吹かせていたいという思いから「薫風」というタイトルにしたと記憶している。どの学校も、大型連休までの1か月間が、まずは山場となる。新鮮な雰囲気も、ここまでである。教員側にアドバンテージがあるのは、ここまでである。

本当に大事なものは、連休明けの3週間である。この期間が勝負の分かれ目となる。気候的には過ごしやすい穏やかな時期である。だが、それに合わせて、のほほんとしていては、命取りになる。のんきにしている時間はない。何ごとにも計画的に意図的に進めなければならない。ビジョンをもって、そこにどれだけのパッションを注ぎ込めるかである。風薫るとは対照的な熱である。内面では熱く燃えているが、外身には、爽やかな風が吹いている。これが理想である。

タイトルは「薫風」ではなくなったが、学校経営も前述のようにいきたい。明日から大型連休に入る。連休直後が重要である。そう肝に銘じて作戦を練っておきたい。授業でも学級経営でも部活動でも、5月にうまくいかなかったことは、なかなか挽回するのがむずかしい。修正が容易ではない。それは、学校経営も同じである。